



加藤 元の ペット

と暮らして みませんか

9

犬の居場所、テリトリーについてお話ししましょう。犬は常によきリーダーを求め、リーダーに従い、テリトリーはリーダーが支配するという習性があります。

犬が廊下の中央にいる場合、リーダーは犬をどかして通り、飼い主が座りたいソファに犬がいれば、犬をどかしてリーダーが座らなければなりません。また、リーダーになりたがる犬は高い所に座りたがるので、リーダーはそれを認めてはいけません。

たとえば、遊びの場面でも、基本的にはリーダーはいつも勝たなければならぬのです。おもちゃやタオルの取り合いになっても、最後はリーダーが必ず手に入れ

テリトリー

犬の“支配”認めてはいけない

なければいけません。リーダーは決して犬に譲ってはいけませんのです。

子犬のうちは折に触れてマズルコントロールし（手で軽く口を閉じさせること）、「NO」（いけません）を教えます。これで子犬のころから、飼い主を心理的にリーダーと認めることになるのです。

次に、犬に休みの姿勢である「ふせ」を教えます。そして「座れ」「ふせ」「待て」「おいで」を繰り返し、うまくできたらほめてあげます。ごほうびとして一粒のドッグフードを与えます。

ただし、命令（要請）は一度だけにしましょう。また、「おいで」と言っても、来たり、来なかつたりする場合はそのままにしてはいけません。リード（引き綱）を引っ張っても必ず来させ、来たら必ずごほうびをあげます。

こうして犬は飼い主をリーダーと認め、ますます信頼するようになるのです。

飼い主はうまくいなくても決して叱ってはなりません。うまくいかないということは、上手にコミュニケーションがとれていないことの証拠なのです。親と子の関係と同じで、よいコミュニケーションが、犬をよい子に育てるのです。これがしつけなのです。

（ダクタリ動物病院広尾病院院長
日本ヒューマン・アニマル・ボンド・
ソサエティ会長）

《産経新聞2004年5月30日掲載》